

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

斜面

2021.8.9

長崎に投下された原爆は、広島ウラン型とは違うプルトニウム型だった。自然界にほとんど存在しない人工の

元素を使う、技術的に一段進んだタイプだ。わざわざ変えた事実から推測されるのは、投下の科学実験としての側面である◆戦争を早く終わらせて百万人もの米国民の命を救った。そう強調された原爆使用の正当化は戦後、米国内に広く浸透した。だが敗色濃厚な日本に2発もの大量殺戮兵器を使う必要性があるはずもない。疑問は投下前、原爆開発の当事者から上がっていた◆飯田市生まれのノンフィクションライター大平一枝さんが、物理学者レオ・シラード（1898～1964年）を追った著書「届かなかった手紙」に書いている。開発の中心を担いながらその威力に悩み、使用に踏み切るべきではないと訴える大統領への請願書をまとめた人物だ◆届かなかったその請願書に署名したのは70人。大平さんは2017年に渡米し、存命中の数人取材した。期待したのは投下を許した罪悪感。だが反対した科学者でさえ、それは口にできなかった。「戦争とはそういうもの」と絞り出したのが印象に残る◆沈黙したり、途中で質問を受け付けなくなったり。インタビューから浮かぶのは科学者の深い葛藤だ。謝罪は、研究に打ち込んだ人生の否定につながりかねない。大平さんは心情をそう推し量る。軍事と結び付いた科学の結末を直視できているか。76年を経たいまも続く、重い問いである。

斜面

2021.8.14

自宅の軒先にあったバケツの縁に1匹のカエルが居座ったのは6月下旬。一晩中、懸命に鳴いていた。水面に草

が浮いていたから池と間違えたらしい。「そこに雌は来ないぞ」。近くの水田へ行くよう声を掛けたのだが、彼は動かない◆5日ほど鳴いて、姿を消した。忘れたころに水草の下を見て驚いた。小さなオタマジャクシがいる。恋は実っていたのか…。ご近所の田んぼに水を流すのは気が引けた。バケツを置いた責任もある。カエルになるまで面倒を見ると決め、毎朝餌を与えた◆本を読んだり、ネットで調べたりの試行錯誤。足が生え尾が短くなってゆく不思議な変化を初めてじっくり見た。一昨日、最後の1匹が出て行った。途中でかなりのオタマジャクシが死んでしまった。飼育に詳しい人に聞いても理由は分からない。力不足を痛感して、気落ちした◆むしろ、野生生物の生死が自分の思い通りになるという考えこそ思い上がりだろうか。食べて、食べられて、死後は分解される。彼らは命で命を支え合う輪の中にいて、人はその外側を生きている。へ蜘蛛がとんぼをとつた軒の下で住んでる尾崎放哉◆東京で「制御不能」とまで言われるコロナの感染が信州にも広がる。残念だが、夏休みを満喫できる事態ではなくなった。まずはわが身を守らねば。ただ、静かな夏も悪くない。ふだん意識もしない足元の生々流転に触れる機会かも。夜風に耳を澄ませば、もう秋の虫の音が聞こえている。

しゃめん
1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 8. 14

じたくののきさききにあつたバケツのふちに1ぴきのカエルがすわつたのは6がつげじゅん。ひとばんじゅう、けんめいになつていた。すいめんにくさがういていたからいけとまぢがえたらしい。「そこにめすはこないぞ」。ちかくのすいでんへいくようこえをかけたのだが、かれはうごかない◆5日ほどないで、すがたをけした。わすれたころにみずくさのしたをみておどろいた。ちいさなオタマジヤクシがいる。こいはみのつていたのか…。ごきんじよのたんぼにみずをながすのはきがひけた。バケツをおいたせきにんもある。カエルになるまでめんどうをみるときめ、まいあさえさをあたえた◆ほんをよんだり、ネットでしらべたりの上こうさくご。あしがはえおがみじかくなってゆくふしぎなへんかをはじめててじっくりみた。いっさくじつ、さいごの1ぴきがでていった。とちゅうでか

なりのオタマジヤクシがしんでしまった。しいくにくわしいひとにきいてもりゆうはわからない。ちからぶそくをつうかんして、きおちした◆むしろ、やせいせいぶつのせいしがじぶんのおもいどおりになるといのかんがえこそおもいあがりだらうか。たべて、たべられて、しごはぶんかいされる。かれらはいのちでいちをささえあうわのなかにいて、ひとはそのそとがわをいきている。へ蜘蛛がとんぼをとつた軒の下で住んでる」尾崎放哉◆とうきょうで「せいぎよふのう」とまでいわれるコロナのかんせんがしんしゅうにもひろがる。ざんねんだが、なつやすみをまんきつでできるじたいではなくなつた。まずはわがみをまもらねば。ただ、しづかななつもわるくない。ふだんいしきもしないあしもとのせいせいいるてんにふれるきかいかも。よかぜにみみをすませば、もうあきのむしのねがきこえている。

コラム「^{しゃめん}斜面」を読んで考えを深めよう

解答例

年 組 名前

斜面

2021.8.9

長崎に投下された原爆は、広島のアナハイム型とは違うプルトニウム型だった。自然界にほとんど存在しない人工の

元素を使う、技術的に一段進んだタイプだ。わざわざ変えた事実から推測されるのは、投下の科学実験としての側面である◆戦争を早く終わらせて百万人もの米国民の命を救った。そう強調された原爆使用の正当化は戦後、米国内に広く浸透した。だが敗色濃厚な日本に2発もの大量殺戮兵器を使う必要性があるはずもない。疑問は投下前、原爆開発の当事者から上がっていた◆飯田市生まれのノンフィクションライター大平一枝さんが、物理学者レオ・シラード（1898～1964年）を追った著書「届かなかった手紙」に書いている。開発の中心を担いながらその威力に悩み、使用に踏み切るべきではないと訴える大統領への請願書をまとめた人物だ◆届かなかったその請願書に署名したのは70人。大平さんは2017年に渡米し、存命中の数人取材した。期待したのは投下を許した罪悪感。だが反対した科学者でさえ、それは口にできなかった。「戦争とはそういうもの」と絞り出したのが印象に残る◆沈黙したり、途中で質問を受け付けなくなったり。インタビューから浮かぶのは科学者の深い葛藤だ。謝罪は、研究に打ち込んだ人生の否定につながりかねない。大平さんは心情をそう推し量る。軍事と結び付いた科学の結末を直視できているか。76年を経たいまも続く、重い問いである。

①米国内では原爆使用について、戦後何と強調され、広く浸透したのですか。一文で抜き出しましょう。

【解答】戦争を早く終わらせて百万人もの米国民の命を救った

②物理学者レオ・シラードは、何をまとめた人物ですか。

【解答】開発の中心を担いながらその威力に悩み、使用に踏み切るべきではないと訴える大統領への請願書

③筆者の考えに対して、あなたはどうか。200字程度で書きましょう。

Grid for writing answers to questions 2 and 3.

1面のコラム「斜面」を読もう

斜面

2021.8.9

長崎に投下された原爆は、広島のアナハイム型とは違うプルトニウム型だった。自然界にほとんど存在しない人工の元素を使う、技術的に一段進んだタイプだ。わざわざ変えた事実から推測されるのは、投下の科学実験としての側面である◆戦争を早く終わらせて百万人もの米国民の命を救った。そう強調された原爆使用の正当化は戦後、米国内に広く浸透した。だが敗色濃厚な日本に2発もの大量殺戮兵器を使う必要性があるはずもない。疑問は投下前、原爆開発の当事者から上がっていた◆飯田市生まれのノンフィクションライター大平一枝さんが、物理学者レオ・シラード（1898～1964年）を追った著書「届かなかった手紙」に書いている。開発の中心を担いながらその威力に悩み、使用に踏み切るべきではないと訴える大統領への請願書をまとめた人物だ◆届かなかったその請願書に署名したのは70人。大平さんは2017年に渡米し、存命中の数人取材した。期待したのは投下を許した罪悪感。だが反対した科学者でさえ、それは口にできなかった。「戦争とはそういうもの」と絞り出したのが印象に残る◆沈黙したり、途中で質問を受け付けなくなったり。インタビューから浮かぶのは科学者の深い葛藤だ。謝罪は、研究に打ち込んだ人生の否定につながりかねない。大平さんは心情をそう推し量る。軍事と結び付いた科学の結末を直視できているか。76年を経たいまも続く、重い問いである。

斜面

2021.8.14

自宅の軒先にあったバケツの縁に1匹のカエルが居座ったのは6月下旬。一晩中、懸命に鳴いていた。水面に草が浮いていたから池と間違えたらしい。「そこに雌は来ないぞ」。近くの水田へ行くよう声を掛けたのだが、彼は動かない◆5日ほど鳴いて、姿を消した。忘れたころに水草の下を見て驚いた。小さなオタマジャクシがいる。恋は実っていたのか…。ご近所の田んぼに水を流すのは気が引けた。バケツを置いた責任もある。カエルになるまで面倒を見ると決め、毎朝餌を与えた◆本を読んだり、ネットで調べたりの試行錯誤。足が生え尾が短くなってゆく不思議な変化を初めてじっくり見た。一昨日、最後の1匹が出て行った。途中でかなりのオタマジャクシが死んでしまった。飼育に詳しい人に聞いても理由は分からない。力不足を痛感して、気落ちした◆むしろ、野生生物の生死が自分の思い通りになるところを考えると、思えば上りだろうか。食べて、食べられて、死後は分解される。彼らは命で命を支え合う輪の中にいて、人はその外側を生きている。〈蜘蛛がとんぼをとつた軒の下で住んでる〉尾崎放哉◆東京で「制御不能」とまで言われるコロナの感染が信州にも広がる。残念だが、夏休みを満喫できる事態ではなくなった。まずはわが身を守らねば。ただ、静かな夏も悪くない。ふだん意識もしない足元の生々流転に触れる機会かも。夜風に耳を澄ませば、もう秋の虫の音が聞こえている。

1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 8. 14

じたくののきさききにあつたバケツのふちに1ぴきのカエルがすわつたのは6がつげじゅん。ひとばんじゅう、けんめいになつていた。すいめんにくさがういていたからいけとまぢがえたらしい。「そこにめすはこないぞ」。ちかくのすいでんへいくようこえをかけたのだが、かれはうごかない◆5日ほどないで、すがたをけした。わすれたころにみずくさのしたをみておどろいた。ちいさなオタマジヤクシがいる。こいはみのつていたのか…。ごきんじよのたんぼにみずをながすのはきがひけた。バケツをおいたせきにんもある。カエルになるまでめんどうをみるときめ、まいあさえさをあたえた◆ほんをよんだり、ネットでしらべたりの上こうさくご。あしがはえおがみじかくなってゆくふしぎなへんかをはじめててじっくりみた。いっさくじつ、さいごの1ぴきがでていった。とちゅうでか

なりのオタマジヤクシがしんでしまった。しいくにくわしいひとにきいてもりゆうはわからない。ちからぶそくをつうかんして、きおちした◆むしろ、やせいせいぶつのせいしがじぶんのおもいどおりになるといのかんがえこそおもいあがりだらうか。たべて、たべられて、しごはぶんかいされる。かれらはいのちでいのちをささえあうわのなかにいて、ひとはそのそとがわをいきている。へ蜘蛛がとんぼをとつた軒の下で住んでる」尾崎放哉◆とうきょうで「せいぎよふのう」とまでいわれるコロナのかんせんがしんしゅうにもひろがる。ざんねんだが、なつやすみをまんきつでできるじたいではなくなった。まずはわがみをまもらねば。ただ、しづかななつもわるくない。ふだんいしきもしないあしもとのせいせいいるてんにふれるきかいかも。よかぜにみみをすませば、もうあきのむしのねがきこえている。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

斜面

2021.8.9

長崎に投下された原爆は、広島のウラン型とは違うプルトニウム型だった。自然界にほとんど存在しない人工の

元素を使う、技術的に一段進んだタイプだ。わざわざ変えた事実から推測されるのは、投下の科学実験としての側面である◆戦争を早く終わらせて百万人もの米国民の命を救った。そう強調された原爆使用の正当化は戦後、米国内に広く浸透した。だが敗色濃厚な日本に2発もの大量殺戮兵器を使う必要性があるはずもない。疑問は投下前、原爆開発の当事者から上がっていた◆飯田市生まれのノンフィクションライター大平一枝さんが、物理学者レオ・シラード（1898～1964年）を追った著書「届かなかった手紙」に書いている。開発の中心を担いながらその威力に悩み、使用に踏み切るべきではないと訴える大統領への請願書をまとめた人物だ◆届かなかったその請願書に署名したのは70人。大平さんは2017年に渡米し、存命中の数人取材した。期待したのは投下を許した罪悪感。だが反対した科学者でさえ、それは口にしなかった。「戦争とはそういうもの」と絞り出したのが印象に残る◆沈黙したり、途中で質問を受け付けなくなったり。インタビューから浮かぶのは科学者の深い葛藤だ。謝罪は、研究に打ち込んだ人生の否定につながりかねない。大平さんは心情をそう推し量る。軍事と結び付いた科学の結末を直視できているか。76年を経たいまも続く、重い問いである。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましよう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましよう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましよう。

Three large dashed-line boxes for student responses.

() () ()

伝えたい順番